



銚子ジオパーク推進 市民の会ニュース

第72号 2017年7月27日 発行

連絡先：茂木（090-8947-2869）

HP：http://choshi-geopark.com

親子で夏の自由研究ツアー始まる

萩野 静也

的でした。

親子で夏の自由研究ツアーの第一弾として7月21日「夏休みの天気図日記」が開催されました。この講座には、生徒19名、保護者17名の方が参加され、そのお住まいは、銚子市を含め4市1町の広い範囲にわたりました。

この研究ツアーは、銚子ジオパーク協議会事務局の山田さんをチーフにして、市民の会からは、宮内秀さん、宮内敏さん、小玉さん、新井野さんと私が、サポートしました。

午前中の山田さんの講義は、天気予報の歴史や「気圧とは」など、さらに、天気図を描くための予備知識の話でした。子ども達は、熱心にメモをとりながら話を聞いていたのが印象

的でした。実際の天気図作成の実習は、宮内敏さんが作図した天気図のポイントを、宮内秀さんが黒板を使ってわかりやすく説明しました。そのためでしょうか、最終的にはほとんどの子とも達が、天気図の完成にこぎ着けたようでした。

夏休みの天気図日記

午後からは、銚子地方気象台を訪ね、台員の方から風や雨などによる気象災害に備

えるための話を聞き、その後露場に出て、温度計や雨量計などを見ました。さらに、天気予報などの仕事をしている部屋を見



銚子地方気象台で雨量計の説明

学する予定でしたが、緊急事態になりそうとのことで部屋の中には入れず、遠くからその作業状況を眺めることになりました。残念。

その後文化会館にもどり、夏休みの宿題のまとめ方などを学び、この日の講義を終了しました。最後に子ども達から天気図の作成を夏休みの自由研究にしたいとの感想があり、今回の研究ツアーに興味を持ってもらえたことが、心強く感じました。

海藻押し葉を作ろう！

藤本 京子

7月22日、15組30名（市内2家庭、あとは近隣からの参加者）が海鹿島丸山の磯に集合。かんかん照りながら海風が心地よく、今までになく潮が引いていて、海藻採集には絶好の日よりでした。

岩礁が遠くまであらわれ、遠くの大きな岩が海面近くで露って見え、幻想的な光景の中、子供たちはもちろん、大人も海にジャブジャブ入り海藻採り。ところが、多くの子が海の生きものに夢中になり、岩の間に住む平べったいカニ、いろいろなアメフラシの仲間、クモヒトデ等々「きてれつな生き物」を見つけては、糟谷先生に見せに来る。先生は海のいきものにも詳しく、「ウニは海藻を食べ、ヒトデがウニを食べちゃうよ」「アメフラシは貝の仲間。これはまだ外側に貝が残っている仲間だよ」と大忙し。

一時間半の採集もあつという間で「海の生き物は持って帰っても死

んでしまうから海に戻そうね」との先生のお言葉に、海藻だけをバケツに入れ、大学に向かった。

昼食後は先生のお話森から川によって運ばれてきた窒素やリンを栄養にプランクトンが育ち、更に海藻、海魚と命が受け継がれ、最終的に人間が海の恵みを利用する生態系のサイクルを学び、いよいよ海藻押し葉づくり。お気に入りの海藻を選び押し葉にし、名前を教えて頂き、ラベルやメモに書き留める。押し葉の作業そのものはお母さんのほうが手際よく、楽しそうに子供さんたちのお手伝い。出来上がった標本の束を板と段ボールではさみ、ゴム輪でまとめて本日

は終了。 数日間



海藻押し葉作り

押し葉に重しをのせ乾燥、ラベルを貼って完成。どんな標本集になるのかな？
今年海藻アートも出現。台紙にいろいろな海藻を生け花風に置いたり、イラストを書きこんだりと楽しんでいる。いろいろな楽しみ方ができるなあと、発想の豊かさに感心。自然の中で遊び、そのめぐみを受けて生態系のサイクルが成り立っていることを子ども達も楽しみながら学べた一日でした。

今月の俳句

黄花咲き 待宵草や 浜の夕

松家 英彦